



# 奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター  
 （奈良県保健環境研究センター内）  
**N a r a I D S C**



## 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 細菌性食中毒に ご注意...



（調査週） 平成 24 年 第 21 週 5 月 21 日（月）～ 5 月 27 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週間からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	感染性胃腸炎	6.66	→	→～↑	→	→
2	A 群溶連菌咽頭炎	1.77	↑	↑↑	↑	→
3	水痘	1.17	→～↑	→～↑	↑	↓
4	咽頭結膜熱	0.63	↑	→～↑	↑	→
5	突発性発しん	0.31	→～↓	→～↓	→	↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

**県北部地区概況** 報告数は 184 例で、前週報告の 144 例から増加。上位 5 疾患は、①感染性胃腸炎、②A 群溶連菌咽頭炎、③水痘、④咽頭結膜熱、⑤突発性発しんの順。A 群溶連菌咽頭炎の報告数（31 例）は、急増。感染性胃腸炎の報告数（109 例）は、増加。水痘の報告数（20 例）は、ほぼ横ばい。咽頭結膜熱の報告数（5 例）も、ほぼ横ばい。突発性発しんの報告数（4 例）は、ほぼ半減。眼科定点からの報告は、奈良市 HC 管内から流行性角結膜炎が 1 例、また、郡山 HC 管内からは、急性出血性結膜炎と流行性角結膜炎がそれぞれ 1 例ずつあった。基幹定点からマイコプラズマ肺炎の報告が、奈良市 HC 管内；2 例、郡山 HC 管内；1 例、計 3 例あった。（村井 記）

**県中部地区概況** 報告数は、187例から198例と増加した。上位5疾患は、感染性胃腸炎、A群溶連菌咽頭炎、水痘、咽頭結膜熱、インフルエンザの順であった。感染性胃腸炎は、107例と横ばいであり、A群溶連菌咽頭炎は18例から26例と増加している。基幹定点からは、マイコプラズマ肺炎1例の報告が、葛城保健所よりあった。眼科定点からの報告はなかった。 (高木 記)

**県南部地区概況** 報告数(第20週→第21週)は36例→25例と減少。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎(23例→17例)、②A群溶連菌咽頭炎(4例→5例)、③水痘(9例→1例)、③突発性発疹(0例→1例)、③流行性角結膜炎、【眼科定点】(0例→1例)であった。 (柳生 記)

# 細菌性食中毒に ご注意... 第1話

これからの季節は、高温・多湿の状態が続きます。そこで細菌による食中毒について、ご注意ください。いただきたい幾つかの食中毒菌と、どうすれば防ぐことができるかについて紹介いたします。

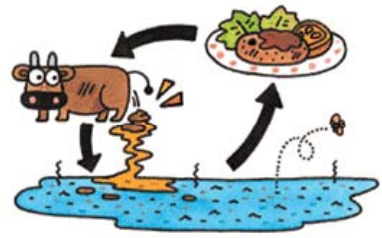
## 下痢原性大腸菌

大腸菌はヒトの腸内など自然界に広く存在します。このうち、下痢や腹痛などの腸炎を起こす大腸菌は下痢原性大腸菌と総称されます。特によく知られるO157はペロ毒素と呼ばれる強い毒素をつくる代表的なものです（他に、O26、O145、O111などが知られている）。

（症状）主な症状は下痢と腹痛です。発熱、嘔吐、血便もみられることがあります。発症は乳幼児と老人に多い傾向で、老人では意識障害、けいれんなど重篤な症状に移行しやすいと言われています。

（感染経路）家畜（牛、羊、豚など）の大腸をすみかとしており、汚染は家畜糞便から水や食べ物を介して広がり、ヒトからヒトへの二次的感染もあります。

（潜伏期間）2～10日、O157は100個程度の微量でも感染が成立します。



## サルモネラ

この菌は最低温度5.2℃でも生育可能なことから、冷蔵庫でも増殖するので安心できません。家畜、鳥、ネコ、ネズミ、ミドリガメなどの動物がよく保有しており、ヒトの手、糞便を介して感染がおこります。また、原因食品としては獣肉、鶏肉、卵製品（手作りケーキ、マヨネーズなど）が知られています。

（症状）発熱（38～39℃）、下痢、嘔吐、腹痛です。

（潜伏期間）8時間～48時間

## カンピロバクター

最近、本県でも増加傾向にある食中毒菌で、酸素濃度が3～15%の環境で増殖します。鶏肉の汚染度が比較的高く、原因食品が判明した大半が鶏肉を中心とした肉類もしくは牛レバーなどの内臓の生食によるものです。また、イヌ、ネコ、ウシ、ブタなども感染源となりやすいことが知られており、濃厚接触は注意が必要です。

（症状）発熱、腹痛、下痢などの腸炎症状です。多くは2～5日で回復しますが、まれに長引く場合もあります。

（潜伏期間）2～7日間

### （食中毒防止の三大原則）

- 1 付けない（清潔）
- 2 増やさない（迅速、冷却、乾燥などで増殖を抑える）
- 3 やっつける（加熱など、目安は中心部の温度が75℃、1分以上）

（感染症情報センター 記）